

JCMA 報告

## JCMA i-Construction 施工による生産性向上推進本部の設置とその活動

### i-Construction 施工による生産性向上推進本部事務局

昨年11月に、国土交通省より建設現場の生産性向上を目標とした取り組み「i-Construction」が発表された。

「i-Construction」は、①ICTの全面的な活用②規格の標準化③施工時期の平準化を取り組みの柱に挙げている。特に建設現場では、起工時の測量から設計照査、施工、検査まで全てのプロセスにICTを取り入れた「ICT施工(土工)」を実施するべく、新しい考え方に沿った基準類も整備された。「ICT施工(土工)」の実施工事は全国で契約されてはじめています。

当協会では、建設生産プロセスのうち「施工」に注目してICTの活用により高効率・高精度な施工を実現する「情報化施工」の推進に取り組んできており、国土交通省のi-Constructionの柱の一つである「ICTの全面的な活用」では、これまでの情報化施工の部分的試行から、生産性向上を目指した全面的な活用(全体最適)へとすすむことから、これに対応した施工～i-Construction施工～の推進活動に取り組むこととした。

具体的活動としては、平成28年4月より「i-Construction 施工による生産性向上推進本部」を設置し、i-Construction 施工として生産性向上・全体最適に向けて、技術を提供する立場、施工する立場から関係機関に必要な提言

等を行うとともに、i-Construction 施工に対応できる人材育成や利用促進に関する情報発信、広報活動等を行っていくものである。

4月に推進本部活動のキックオフとなった第1回の会合を開催して、平成28年度「i-Construction 施工による生産性向上推進本部」の下に活動する委員会やワーキンググループの方針説明を行った。

図-1に各委員会、WGの取組・役割を示す。情報化施工委員会ではこれまでのWG活動のうち東日本大震災復興工事へのICT活用を支援した「復興支援WG」と情報化施工導入を支援する「Q&A WG」を、活動状況の区切りとして新設するWGに統合することとした。

新設したWGでは「i-Construction」対応として積極的な活動を進めており、以下にその活動内容を示す。

まず4月より活動を開始した「i-Construction 普及WG」では、喫緊の課題である「i-Construction」と「ICT施工(土工)」の理解とこれに対応できる技術者・技能者確保への取組として、図-2に示すようにJCMA認定の講習カリキュラム・講習テキスト作成をWG参加会員の協力の下4月より進めている。これにより各地の講習会では一定レベルを確保し、スムーズな講習会実施に役立てていく。

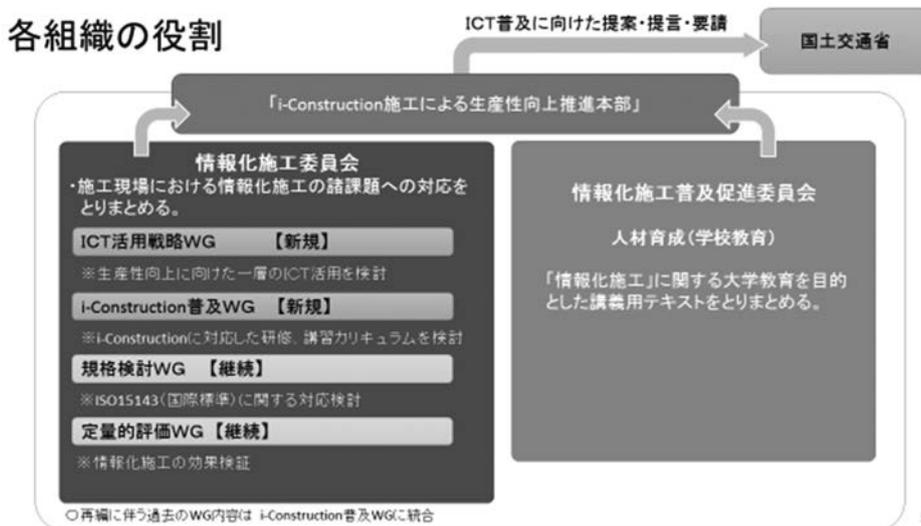


図-1 「i-Construction 施工による生産性向上推進本部」各組織の役割

### i-Construction普及WG

・喫緊の課題として、平成28年度から国土交通省発注工事において推進される「i-Construction型工事（ICT土工）」に対応できる技術者の育成がある。

○講習会は全国規模開催される予定であり、その講習にあたっては一定の水準をクリアすることが必要である。

○講習会ではJCMA会員により開催されるものも想定される

講義内容の JCMA標準案をとりまとめその普及を行う。【JCMA認定】

- 『i-Construction講習の標準カリキュラム』
- 『i-Construction講習の標準テキスト』

※ 必要に応じ分野毎サブWGを設け作業を行う。

図一 2 i-Construction 普及 WG 活動内容

### ICT活用戦略WG

・建設施工現場のさらなる生産性向上のために「ICTの全面的な活用」に向けてICT適用工種の拡大や適用技術の拡充を図る。

例として

i-Constructionの適用範囲を、土工以外の工種に広げることや  
レーザスキャナ(LS)・UAV写真測量以外の測定手法・技術も活用など。

・建設施工現場での一層のICT活用に向けて以下を検討・とりまとめを行う。

制度・基準に関する提案・提言・要請

※ 必要に応じ分野毎サブWGを設け作業を行う。

図一 3 ICT 活用戦略 WG 活動内容

JCMA 版の作成に当たっては編集作業に時間を要することから、先行して講習用資料を作成した東北支部「情報化施工技術委員会」より各支部に情報提供した。

現在編集中の「i-Construction 概要編」「個別技術編」「要領解説編」とともに適宜スパイラルアップしながら会員に提供していく予定である。

次に「ICT 活用戦略 WG」では、建設施工現場のさらなる生産性向上へ向けた広範な課題について自由な議論を行う。そこでは図一 3 に示すように「i-Construction」としての取組範囲を土工以外の工種や新たな技術にも

広げることや、建設現場で ICT を活用し技術開発を継続するための制度的課題への要望など、それぞれ参加 WG 員の意向を踏まえ SWG を設けて具体的な検討を進めて行く。

取りまとめられた内容は国土交通省主催の「ICT 導入協議会」などで発注者側へ伝えて行く。

なお、「i-Construction 施工による生産性向上推進本部」で議論された内容については、協会員向けの報告会を 12 月に予定しているので参加いただきたい。

JCMA